

『詩七日』に 決まりました



「第十二回萩原朔太郎賞」は、平田俊子さんの『詩七日』に決定。九月四日に行われた選考会で、最終選考に残っていた六点の作品の中から選ばれ、九日、前橋文学館で記者発表が行われました。ここでは、受賞作品や平田さんのプロフィール、喜びの言葉などを紹介。なお、賞の贈呈式と記念講演などが行われる催しは、十月三十一日に同館で行われます。

問い合わせは生涯学習課 8905825へ。

喜びを語る平田さん(中央)

最終候補に残った 6作品の中から

「第十二回萩原朔太郎賞」の選考委員会が九月四日、東京で行われ、九日、前橋文学館で高木市長が結果を発表しました。朔太郎賞に決まったのは、詩

人・平田俊子さんの詩集『詩七日』。最終候補作品六点の中から選ばれました。なお、選考委員と、最終選考に残っていた候補者・作品名・出版社は次のとおりです(敬称略)。

5人の選考委員

天沢退二郎(詩人・評論家・仏文学者)、清水哲男(詩人)、司修(画家・作家)、富岡多恵子(詩人・作家)、吉増剛造(詩人)。

最終候補者と作品

川崎洋『埴輪たち』(思潮社)、八木忠栄『雲の縁側』(同)、まどみちお『たつたつた』(理論社)、佐々木幹郎『悲歌が生まれるまで』(思潮社)、高貝弘也『半世紀』(書肆山田)、平田俊子『詩七日』(思潮社)。

四月七日

谷川俊太郎のことを考えている

きょうも

きのうも

おととも。

図書館にいつて

谷川俊太郎の本を三冊借りる

日曜の図書館は

平日よりも疲れた顔をしている

バス停前の

いつか入ろうと思っていた喫茶店は

知らないうちにつぶれていた

その隣にある

いつかいきたいと思っっている大杉医院は健在だ

喫茶店より病院のほうが

寿命が長いということなのか

谷川さんの詩集を読み

谷川さんについて少し書く

エッセイをという注文なのに

なぜか行分け詩になってしまっ

谷川さんを読んだせいで

からだが行分け詩のリズムに侵されたいらしい

おととい

谷川俊太郎を遠目に見た

谷川俊太郎がしゃべるのも聞いた